

キラリ

清瀬で生きる女性に  
インタビュー

# 誰にも、自分にも嘘をつかない

清瀬消防署署長 畠山 眞由美さん

清瀬消防署で警防課長を務める畠山さん。災害現場で、消火や救急、救助活動などの統括を行っています。

●日々の仕事の様子を教えてください

毎日警防隊員は、訓練を行い、実災害に備えています。他にも、防災指導や建物の検査などにも出向します。多岐にわたる業務に対応するため、訓練や研修を通じ、資格取得や技術向上を目指す職員に対する働きやすい職場づくりが私の仕事です。

●この仕事を選んだきっかけ

就職を考えたときに、営利目的の事業で働く自分が想像できず、まちの人と関わる仕事をしたいと思いました。採用試験の願書を取りに行く友人に付いていった先でのきびきびした女性消防官の対応に感動し、入職の決意を固めました。着任後に出会った上司も、素晴らしい女性でした。活躍する先輩たちの姿が、よいモデルとなって、今でも自分の基礎となっています。

●大変と感じることはありますか？

転勤が多く、いろいろなところに配属されるため、その分苦労もありました。しかし、失敗も決して無駄にはなりません。いろいろなことを経験することで引き出しが増え、現在につながっていると思います。

●仕事から得られる喜びは？

市民の皆さんに「ありがとう」と言ってもらえることが、一番の喜びで、技術の向上につながり、これからも頑張ろう、と気が引き締まります。

●仕事上、大切にしていること

「嘘をつかず真摯に誠実に仕事をすること」です。市民目線で市民に寄り添う制服を着ていないときにも、常に気を付けています。

●忙しい毎日のリフレッシュ方法

子どもが小さい頃は、よくスキーやテニスに出かけました。家族の共通の時間や目的を持つのがよかったですね。今でも、冬にはスキー場に行きます。また、様々な職種の高校時代の友人たちとの年に1回の旅行での交流も、大切な時間です。

●今後の目標を教えてください

消防人生も30年を超え、これまで、多くの機会を与えてもらい経験してきたことを、後輩たちに伝えていきたいです。自分が出産子育てをしているころは、制度もまだ少なく、親と同居してみてもらうことで何とか乗り切りました。でも今では育児休業制度や、ワーク・ライフ・バランスに向けた職場の環境づくりが進んでいます。女性も働き続けられるように自分の経験や知識を伝えたいと思います。

## ★インタビューを終えて★

身を持って得た経験、出会いが畠山さんの仕事に対する熱い想いと、凛とした真摯な姿の源だということが、よくわかりました。子どもと一緒に大勢で訪問したにもかかわらず、お忙しい中、畠山さんをはじめ、署の皆さんが丁寧にご対応くださいました。  
(福田)



ありがとうございました！



●清瀬の人たちへメッセージ

いつ大きな地震が起きてもおかしくない状況です。家具の転倒・落下防止など、身近なところから、地震対策と火災予防に取り組んでください。清瀬消防署は、市民の皆さんに最も近い防災機関として清瀬市の安全安心のために今後も尽力してまいります。